

令和2年第9回西予市教育委員会定例会 会議録

I 開会の月日及び場所

令和2年9月29日(火)

西予市教育保健センター4階 第二研修室

II 定数

5人

III 出席者

教育長 松川 伸二	委員 平岡 長治
委員 古谷 和彦	委員 酒井 郁子
委員 梅川 俊一	

IV 欠席者

なし

V 議事に出席した公務員の職氏名

教育部長 宇都宮 裕	教育総務課長 垣内 俊樹
学校教育課長 滝澤 洋	生涯学習課長 竹内 克之
スポーツ・文化課長 谷口 佳代	明浜教育課長 佐々木邦仁
野村教育課長 土居 文人	城川教育課長 久保田 修
三瓶教育課長 滝野 広明	教育総務課長補佐 山崎 徳博
教育総務課主任 稲口 智博	

VI 傍聴者

なし

VII 会議の概要

1 開会

教育長 午後3時開会を宣する。

2 会議録の承認

教育長 令和2年第8回教育委員会定例会会議録について意見を求める。

全委員 特になし。

教育長 令和2年第8回教育委員会定例会会議録の承認について諮る。

全委員 異議ない旨答える。

教育長 第8回教育委員会定例会会議録を承認する旨宣する。

3 行事報告及び行事予定について

教育長 小中学校において、運動会と修学旅行が2学期にそれぞれ実施されることになっている。

まず、運動会については、三瓶小学校を除くすべての小中学校で運動会を終えている。それぞれの学校において、時間短縮や競技の変更、来賓及び来場者の制限などの十分な感染症対策を講じ、万全の態勢で運動会が開催された。三瓶小学校については、11月22日に半日で開催予定となっている。

次に小中学校の修学旅行については、既に実施済みの学校として、明浜中学校が9月1日から4日までの3泊4日の日程で、行き先を四国内に変更して実施している。また、三瓶中学校が9月18日に日帰りで、修学旅行に代わる3年生の思い出づくりの取組みとして、吉野川でラフティングを実施している。野村中学校では、例年、2年生が修学旅行の対象となっているが、今年度は実施せず、来年度から3年生を対象に実施することに変更されている。この3校以外については、これから11月13日までの間にすべての学校で実施する予定である。行き先は従来であれば、小学校が九州方面、中学校が関西方面であるが、今年度は小中学校ともに四国内となっており、保護者の同意もすべて得られている。直近では、宇和町小学校が10月5日から1泊2日で、皆田小学校が同じく10月5日から2泊3日で、実施することとなっている。

令和2年第3回西予市議会定例会が現在開会中で、10月9日が最終日となっている。10月3日、4日には、一般質問があり、教育委員会に関する質問及びその答弁の内容については、後ほど部長から説明をする旨報告する。

10月行事予定について報告を求める。

教育総務課長 10月行事予定について報告する。併せて令和2年第10回教育委員会定例会の日程について、10月27日（火）午後3時から開催する旨提案する。

教育長 令和2年第10回教育委員会定例会の開催日程について意見を求める。

全委員 特になし。

教育長 令和2年第10回教育委員会定例会を10月27日（火）午後3時から開催する旨宣する。

4 協議・報告事項

○報告

教育長 西予市立学校給食センター及び学校給食調理場条例の一部を改正する条例制定について報告を求める。

学校教育課長 第8回教育委員会定例会において報告した、西予市立学校給食センター及び学校給食調理場条例の一部を改正する条例案について、9月18日に開催された令和2年第3回西予市議会定例会本会議において原案のとおり決定された旨報告する。

教育長 報告事項について意見を求める。

全委員 特になし。

教育長 令和2年度一般会計補正予算（第6号）の概要について報告を求める。

教育総務課長 令和2年度一般会計補正予算（第6号）のうち、教育委員会に関連する内容について報告する。

教育長 報告事項について質疑を求める。

全委員 特になし。

教育長 成人式について報告を求める。

生涯学習課長 令和3年成人式について、現在の新型コロナウイルス感染症の状況と、国、県の対応を踏まえ、現時点では予定どおり来年1月3日に実施する方向で準備を進めることとした。

会場については、例年、西予市宇和文化会館1箇所で開催していたが、今回は市内各町5箇所で分散して、同時に開催する予定である。また、行事内容や来賓の案内範囲の縮小を行うこととしている。ただし、これは現時点の判断であり、状況に応じて変更の可能性もある。

その他の対応として、対象者には、新型コロナウイルス感染防止に配慮した生活習慣を呼びかけることや、都市部から帰省する対象者への偏見や差別がないように、事前に市内全戸に対し文書を回覧し、人権上の配慮を呼びかけることなどを考えている。

対象者への案内は、例年どおり11月上旬を予定しており、概要については、既に市ホームページに掲載している旨報告する。

教育長 報告事項について質疑を求める。

教育長 暫時休憩する旨宣する。（休憩 午後3時21分）

教育長 再開を宣する。（再開 午後3時29分）

全委員 特になし。

5 その他

- 教育長 令和2年第3回西予市議会定例会一般質問に対する答弁内容について報告を求める。
- 教育部長 令和2年第3回西予市議会定例会一般質問のうち教育委員会に係るものの質問内容及びそれに対する答弁の要旨を報告する。
- 教育長 報告について質疑を求める。
- 平岡委員 「学校『校務支援システム』について」の答弁内容に関して、1学期から運用が始まった校務支援システムにおいて、教職員が初めての入力作業で不慣れであったため、多少時間を要した部分もあったようである。これは、現時点では負担が軽減されたというより、新しいシステムに慣れるのに努力しているという感じなのか問う。
- 学校教育課長 教職員それぞれのパソコン操作のスキルによって、作業に差が出ているようではある。システムを使いこなしている教職員からは、普段から子供たちの様子をノートに書きためるようにシステムに入力しておくことで、懇談会時の資料づくりが、今までよりも大幅に削減できたといったことや、所見を書く時間が短縮できたといった報告もある。そのような活用方法を周知することで、少しでも労働時間の削減や負担の軽減につなげていきたいと考えている旨述べる。
- 教育長 教職員からは様々な意見が寄せられているが、このシステムは働き方改革に反映できるシステムだと思っており、慣れていくしかないのではと思っている旨述べる。
- 古谷委員 運用が始まったばかりなので、今が色々と大変な時ではないかと思う。例えば、操作や運用方法についての様々な意見が現場から出てくるのではと思うが、そのような意見は、一括して市教育委員会が窓口になって受けているのか問う。
- 学校教育課長 現場からの意見については、市教育委員会ですべて伺っているが、各学校においてもシステムに合わせる必要があるところもあり、すべての要望を反映することは難しい。その点については各学校と協議しながら、より使いやすいように改善していきたい旨述べる。
- 古谷委員 例えば、1年後にシステムを使用しての意見のすり合わせなどを行う機会があったら良いと思う旨述べる。
- 学校教育課長 今後、そのような機会をつくる必要があると考えているところであるが、会議の数を増やすことは、働き方改革の観点から適切ではないと思う部分もある。例えば、教務主任会が行われる際にこちらから出向き、学校の中で、システム活用の中心となる教務主任の声を聞くという形をとるといったことも考えている旨述べる。
- 教育長 導入したシステムというのは実績のあるシステムであり、このシ

システムに教職員が合わせるということも大切であると思っている。そのため、今までこうだったからシステムもこうあって欲しいということについては、可能な限りシステムに合わせて欲しい。

また、教職員がどこの学校へ赴任しても、同じシステムで校務が行えるという方向にしていきたいと考えている。このシステムは、県内でも広く使われているシステムである。最近では広範囲での人事異動もあるため、そのような人事異動があった場合でも赴任先において使い慣れたシステムで校務を行うことができ、それがまた働き方改革につながっていくのではと思っている。

古谷委員が発言されたとおり、確かに様々な意見が出てきている。担当職員も苦慮しているが、こちらの考え方としては、すべての意見を反映することは難しいという方向性である旨述べる。

酒井委員

今年度学校訪問をした際に、日誌類や色々な諸帳簿が電子化されて、これまでの学校日誌や給食日誌、保健日誌等といったものがなくなっており、少し違和感を覚えたが、やはりこれが今の流れかと思う。

電子化により便利になるのは良いが、その分、担当者や管理職の確認、管理などの徹底が必要になると思う旨述べる。

梅川委員

校務支援システムについては教育長の説明のとおり、システムを統一しておけば、異動があっても赴任先で同じようにシステムを使うことができるため、良いと思う。

確かに慣れや個人のスキルの差といったことがあるとは思いますが、家庭のパソコンを使う場合でも慣れるのが一番だと思うため、先生方にも頑張ってもらいたいと思う。

また、「新型コロナウイルス感染症対策と行き届いた授業実現へ少人数学級の実現を」の答弁内容について、少人数学級というのは何人学級のことか問う。

学校教育課長

35人学級である旨述べる。

梅川委員

宇和中学校のように生徒数が多い学校では、40人学級から5人減らすことで、学校の新しい生活様式による目安の前後左右の机の間隔を今以上に十分に取ることができるようになるため良いのではと思う。その場合、教室の確保や教職員の配置等の問題が出てくると思うが、そのような声があるのであれば少人数学級への移行も、早いうちに考えても良いのではと思う旨述べる。

学校教育課長

35人学級実現への要望は、学校現場からも以前から出しているところではあるが、進んでいないのが現状である。今後においても強く要望していきたいと思う旨述べる。

教育長

1 学級増えることで当然教職員も増員する必要が生じ、教職員の確保から考える必要がある。中学校であれば 40 人学級を 35 人にということを法律の中で改正し、国の教職員の配置基準を改めることによって人員を確保していくといった取組みでないとなかなか実現は難しいのではと思う。

宇和中学校の場合、1 年生が 156 人、2 年生が 157 人、3 年生が 153 人でそれぞれ 4 学級であるが、学年の生徒数が 161 人になれば 5 学級となる。

各学年 160 人を少し下回る状況であり、1 年生であれば 5 人、2 年生であれば 4 人、3 年生であれば 8 人生徒が増えれば 1 学級増えることとなる。それにより当然必要な教職員も配置され、この問題は解決できることになる旨述べる。

6 閉会

教育長

午後 4 時閉会を宣する。

議事録署名

以上、令和2年第9回西予市教育委員会定例会の顛末を記録して相違ないことを証明する。

令和2年10月27日

教育長

松川伸二

教育委員

平岡長治

教育委員

古谷和彦

教育委員

酒井郁子

教育委員

梅川俊一